

令和元年度 身近な教育委員会・保護者懇談会

教育委員会室から外に出て、区民や保護者がより身近に感じられる学校等で開催する「身近な教育委員会」及び「保護者懇談会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：令和元年10月8日（火）10時30分～12時20分

場所：志村第六小学校体育館

概要：第1部 身近な教育委員会

「学校における情報通信端末の取扱いについて」

『SNS東京ルール』の改訂について」

「板橋区立学校におけるICT化の現状について」

第2部 保護者懇談会

「志村第六小学校によるタブレットPC『コラボノート』の活用について」

《グループ討議》

【A班・E班】 『子どものスマホ』の学校への持ち込み <賛成>? <反対>?

【B班・F班】 子どもに『スマホ』は <必要>? <不要>?

【C班・G班】 『スマホ・タブレット』 授業でどうやって活用する?

【D班】 『スマホの使い方』 ウチはこんな<ルール>!

※懇談・発表の要旨（教育長講評）は、次ページ以降のとおりです。

参加者：53名

（内訳）保護者等 29名

教育長・教育委員 4名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員

学びのエリア校長・副校長 5名

志村第六小学校 杉本昌彦校長 河毛哲郎副校長

蓮根小学校 湯本正雄校長

蓮根第二小学校 上原悟副校長

志村第三中学校 山田敏久校長

教育委員会事務局関係者 15名

令和元年度 保護者懇談会 グループ懇談・発表要旨(教育長講評)

◎ 教育長の講評（感想・意見交換）

<<『子どものスマホ』の学校への持ち込み <賛成>？<反対>？>>

【教育長】

賛成か、反対か、挙手していただくと、ぱっと見る限り同じくらいでしょうか。

子どもの安全面を理由に持ち込むのであれば、スマホでなくても良いのではという意見があります。

そもそも、何のために学校にスマホを持ち込むのかというところを考えなくてははいけません。

地震等の災害や登下校の安全への対策ということであれば、スマホでなくても良いとも言えそうです。

一方で、授業の中でスマホを活用できる可能性についても考える必要があります。

まずは、スマホの学校への持ち込みについて、反対という視点からはいかがでしょう？

【A班】

安全面の理由であれば、キッズケータイなど、GPS機能のある機器等でも代用可能だと思います。

低学年からICT機器の使い方を学ぶことが、子どもたちのためになるという理由であれば、子どものスマホは持ち込ませず、学校でタブレット等を全員に用意していただくのが理想だと思います。

【教育長】

区立小中学生全員に1台ずつ、31,000台のタブレットを用意するとすると、あまり現実的ではないと言えそうです。

それでは、賛成という視点からはいかがでしょう？

【C班】

学校でタブレット等を全員に用意し、1台ずつ使えるようにするのが理想とする目標であれば、個人のスマホを持ち込むことで、その目標に早く近付けるという点では良いのではないかともあります。

【教育長】

31,000台を用意できるように、皆様からの後押しをいただければと思います。

教育委員会では、現在のところ、各校に135台を用意することを目標にしています。

各校で3クラス分が同時に使える計算となりますが、理由としては、区立の小中学校各校は、通常3階建てで、3クラス分あれば各階に1クラス分ずつ置いて、使い勝手が良いという判断からです。

改めて、スマホの持ち込みは何のためなのか、安全面・安心面であれば代用できるものもあります。

高校ではスマホを持ち込み、授業で活用することが当たり前になっているという話も聞きました。

また、中学校でも条件付きで認めてはどうかという意見もありました。

そして、小学生にはやはり時期尚早ではないかという意見ももちろんありました。

現代では、あまりにスマホ等の機器が浸透し過ぎていて、全く使わないというのは難しいと思います。

それでも、その一方で、スマホから離れる時間があっても良いのではという意見もありました。

<<『スマホの使い方』ウチはこんなルール>！（でも守ってくれない・・・）>>

【教育長】

ご家庭できちんとルールをつくっている方はどれくらいいますか？また、どんなルールでしょうか？

【E班】

動画を中心にインターネットが大好きな子どもだが、宿題等を済ませてから見るようにさせています。小学1年生の子どもで、今のところ時間の制限はないが、消灯は8時30分と定め、とにかくやることを済ませてから見るようにさせています。

【教育長】

スタディアアプリというものが月額1,000円くらいで利用可能で、様々なコンテンツがあります。例えば、問題で間違えたところを教えてくれて、その子に個別最適化してくれるアプリがあります。

さて、ご家庭でルールは徹底できるでしょうか？

ご家庭の中でルールをつくって守ってもらえない限りは、学校だけでは難しいと言わざるを得ません。何でも学校で教えるというのはやはり難しいところがあります。

ご家庭でつくったルールを子どもに守らせることは、実際にはいかがでしょうか？

【B班】

子どもにルールを守らせるのはやはり難しいと思います。

現実に、娘のスマホを隠しては見つけられての繰り返しになっていたりもします。

【教育長】

まずは、ご家庭で確実にルールを決めて、守っていただきたいと思います。

<<子どもに『スマホ』は <必要>?<不要>?>>

【教育長】

将来を生きるために、メリット・デメリットという点で考えると、これから必ず必要になってくると思います。

皆さんにお伺いしてみましよう。

小学生には必要か？不要か？不要が多いでしょうか。

中学生には必要か？不要か？必要がぐっと増えてきて、同じくらいでしょうか。

高校生には必要か？不要か？必要がさらに増えて、不要を上回っていきそうですね。

青木委員は、有効に活用するという点で必要だという意見だと思いますが、いかがでしょうか？

【青木委員】

絶対に必要だと、ずっと思っています。

ただし、プラスに使えるようなルールづくりが必要だと考えています。

例えば、SNSに熱中するよりも面白い使い方があるよと教えたり、体験型のアプリや学習に興味を持てるような、具体的なアプリを紹介するようなことを心掛けています。

学習につながる、学習に使えるようなものを有効に活用することが重要だと思います。

【教育長】

そうしたものについての情報発信をしていくことが必要なのでしょうね。

湯本校長先生には、あえて父親としての視点で、ご意見を伺ってみましよう。

【湯本校長】

活用という点ではやはり現代の、そしてこれからの社会において必要だと思います。

一方、安全管理が必要で、良くないサイトや良くないつながりが出てくる不安もあります。

基本的には、これから生きていくうえでは必要だと思います。

また、一方では良いつながり・交流ができることもあります。

例えば、留学している我が子とのやりとりで気持ちがつながる、伝わるようなこともあります。

いわゆるネット、SNSによるいじめというような悪い面を見逃すことはできませんが、きまりをしっかり守ることを前提にしたうえで、スマホは必要と言えるかと思います。

【教育長】

今の子どもたちが社会で活躍する時代＝2030年は、Society 5.0と言われ、今ある仕事のほとんどをAIがカバーしてしまう、また、今ない仕事がたくさん生まれてくる時代となりそうです。

極端な話ですが、ICTを活用できない人は、厳しい環境に追いやられる可能性が高いと言えます。

そうした時代には、やはり活用する技術を身に付けないといけないということになります。

マイナス面ばかりを見るだけでなく、プラス面も見ないといけないですし、そうしたことを、我々大人が範を示さないといけないと思っています。

<<『スマホ・タブレット』 授業でどうやって活用する?>>

【教育長】

コラボノートを活用した5年生の授業をご覧になった感想を伺いたいと思います。

【F班】

子どもたちがタブレットをサクサクと使いこなしている印象がありました。

【教育長】

中学校では、子どもたちの活用具合はいかがでしょうか？

【山田校長】

例えば、修学旅行先の情報などをインターネットで調べたりしています。

また、体育の授業ではハードルの跳び方をタブレットで録画して、それを見てフォームをチェックするなど、こちらで教えなくても子どもたちは自然に活用できるようになっています。

結果として、効率の高い学習ができるようになっていると言えます。

【教育長】

板橋区立の小中学校では、普通教室の全部に、電子黒板や実物投影機、パソコン等を配備し、授業に活用されています。

高野教育長職務代理者は、数多くの学校を訪れ、授業を見学されていますので、その様子等を伺えればと思います。

【高野教育長職務代理者】

先週、赤塚第二中学校を見学に伺った際、コラボノートを使い国語の授業を行っていました。

インターネットを使うと、本ではすぐには調べられないようなことも調べられたりします。

先生におすすめの癒しの場所を紹介するというような内容で、あるコーヒーチェーンを取り上げていましたが、全国にどのくらいの数の店舗があって、どのような客層が利用しているといった情報を調べ、その結果から、先生におすすめしますといったように、今の情報をすぐに入手できていました。

子どもたちが柔軟な考えでもって、面白い授業をやっているなという印象を強く受けました。

また、小中一貫教育という視点では、体育の授業で中学生と小学生が交流していて、先ほどの山田校長先生のお話ではハードルについてでしたが、私が見学した授業では、前転している様子をタブレットで撮影していて、「ここを直すと良くなるよ」というようなアドバイスをしたりするなど、上手に活用していました。

結果をその場ですぐに見られるという良さがあり、様々な使い方で可能性をととも感じています。

【教育長】

とても素晴らしいことだと思うので、ICT機器の活用はぜひ、どの学校でも、どの授業でも進めて欲しいと思います。

レゴブロックを使った「ファーストレゴリーグ」というプログラミングの大会があるのですが、成増ヶ丘小学校では、システムエンジニアとして働く保護者の方が中心になって、一昨年参加しました。

全国から子どもたちが集まってくる大会なので、初参加では何も知らずに厳しいと思っていたのですが、昨年は2年目にして、公立小学校で、日本で初めて世界大会に行くことが決まりました。

子どもたちには、目には見えない可能性が詰まっていて、それを引き出したものの1つが、ICT機器だったのではないかと思います。

成増ヶ丘小学校の子どもたちが活動しているところを見ていると、本当に夢中になって集中しているのが分かります。

今年、世界大会がトルコで開催されましたが、プレゼンテーション等を全て英語で行います。

そこで、先ほどのプログラミングだけではなく、成増ヶ丘小学校の子どもたちに英語を教えるのも、英語が得意な保護者だったのです。

つまり、先生が何かをするのではなく、保護者そして地域には得意分野をもった方々がたくさんいて、子どもたちの良さを引き出してくれるという1つの良い例であったと思います。

ICT機器は確実に、教育の助けとなり、子どもたちの可能性を引き出してくれるツール（道具・手段）だと考えています。

今後も引き続き、整備を進めるとともに、効果的な活用をめざしていきますので、引き続きまして、皆様のご理解、ご協力、ご声援をお願いしたいと思っています。

本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。